

2025 年 11 月 17 日

ニュースリリース

株式会社 T2

**「自動運転トラック輸送実現会議」設立 1 年で参画企業が 15 社に拡大
～レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービスに向けて実証・改善フェーズへ～**

株式会社 T2（東京都千代田区、代表取締役 CEO：熊部 雅友、以下「T2」）が 2027 年に開始を目指すレベル 4*1自動運転トラックによる幹線輸送サービスを見据えて昨年設立した「自動運転トラック輸送実現会議～L4 Truck Operation Conference～」*2（以下、「本会議」）はこのほど設立から 1 年を迎え、この間、当初 10 社だった参画企業は物流会社や商用車メーカーなどが新たに加わり 15 社に拡大しました。



※参加企業は50音順

1. これまでの取り組み

本会議では、2024 年 10 月の設立以降、レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービスの開始に向けて、参画企業がそれぞれの知見やノウハウを持ち寄り、国土交通省や総務省も交えて運行オペレーション上の諸課題を抽出するなど、毎月協議を重ねてきました。さらに本年に入ってから、議論に加えて、以下 2 件の課題について実証*3も行っていました。

課題	実証内容
・切替拠点*4のキャパシティオーバー ・輸送にかかるリードタイムの短縮	日中時間帯を有効活用した運行オペレーションの構築
・自動運転トラックの遠隔監視、緊急時対応の体制構築	遠隔での車両監視および緊急時の対応

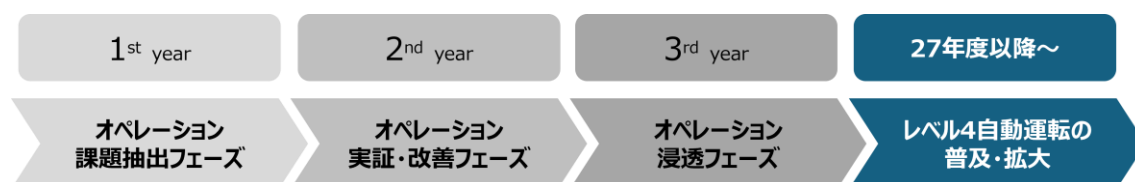
※実証の詳細：<https://www.t2.auto/news/2025/0715.pdf>



参画企業は T2 のほかに、佐川急便株式会社、セイノーホールディングス株式会社、日本貨物鉄道株式会社、日本郵便株式会社、福山通運株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、三井倉庫ロジスティクス株式会社、三菱地所株式会社、KDDI 株式会社の 10 社からこの 1 年で新たに株式会社大林組、鈴与株式会社、日本通運株式会社、三菱ふそうトラック・バス株式会社、名鉄 NX 運輸株式会社が加わり、15 社まで拡大しました。

2. 今後の取り組み

レベル 4 自動運転トラックの幹線輸送サービスに必要な運行オペレーションの課題を抽出するフェーズを経て、今後は、運行オペレーションの有効性を確認するための実証を重ねるとともに、そこで見つかった諸課題の改善活動に取り組んでいきます。



*1 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

(参照 : <https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>)

*2 設立の際のニュースリリース : <https://t2.auto/news/1106.pdf>

*3 実証開始の際のリリース : <https://www.t2.auto/news/2025/0715.pdf>

*4 高速道路における無人運転と、一般道における有人運転を切り替える上でドライバーがトラックに乗降する拠点

会社概要

本社所在地：東京都千代田区内幸町二丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 1 階

代表者：代表取締役 CEO 熊部 雅友

設立日：2022 年 8 月 30 日

事業内容：自動運転システムの開発、レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービス事業、幹線輸送に付随した関連サービス事業、その他関連サービス事業

企業サイト：<https://t2.auto/>

公式 X：https://x.com/t2_auto

以 上